

Title	岩根久先生 略歴・研究業績等一覧
Author(s)	
Citation	Gallia. 2020, 59, p. 17-26
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77089
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

岩根久先生 略歴



- 1954年6月22日 豊中市蛭池に生まれる
- 1961年4月 豊中市立蛭池小学校入学
- 1967年3月 同卒業
- 1967年4月 豊中市立第五中学校入学
- 1970年3月 同卒業
- 1970年4月 大阪府立北野高等学校入学
- 1973年3月 同卒業
- 1973年4月 大阪大学理学部高分子学科入学
- 1977年3月 同卒業
- 1977年4月 大阪大学文学部文学科研究生（1979年3月まで）
- 1979年4月 大阪大学大学院文学研究科博士前期課程（仏文学専攻）入学
- 1981年3月 同修了
- 1981年4月 大阪大学大学院文学研究科博士後期課程（仏文学専攻）入学
- 1983年10月 フランス政府給費留学生としてパリ第7大学に留学（1984年9月まで）
- 1985年3月 大阪大学大学院文学研究科博士後期課程（仏文学専攻）単位修得退学
- 1985年4月 大阪大学言語文化部フランス語教育講座助手
- 1987年4月 同講師
- 1988年12月 同助教授
- 2002年4月 同教授
- 2005年4月 大阪大学大学院言語文化研究科言語情報科学講座教授に配置換
- 2020年3月 定年により退職

岩根久先生 研究業績等一覧

著書（共著）

1. 『ことばは生きている』（高岡幸一・宮川精一編，津田葵氏他 13 名との共著），人文書院，1991 年 9 月。
2. 『英語英文学研究とコンピュータ』（齊藤俊雄編，齊藤俊雄氏，渡辺秀樹氏他 17 名の共著）英潮社，1992 年 3 月。
3. 『エクリチュールの冒険—新編・フランス文学史—』（柏木隆雄他編，柏木隆雄氏他 20 氏との共著），大阪大学出版会，2003 年 12 月。
4. 『アクティブラーニング型授業としての反転授業 [実践編]』（森朋子・溝上慎一編，森朋子氏他 12 氏との共著），ナカニシヤ出版，2017 年 5 月。

編集

1. 『フランス文学小事典』（柏木隆雄氏他 5 氏との共編），朝日出版社，2007 年 3 月。

論文（単著）

1. 「論説詩の崩壊—ロンサールの転機—」, *Gallia*, n°11-12, pp.29-38, 大阪大学フランス語フランス文学会, 1983 年 3 月。
2. «Digrammes constituants du lexique du français contemporain», 『言語文化研究』 XII, pp. 289-292, 大阪大学言語文化部, 1986 年 2 月。
3. Digrammes de faible fréquence dans le lexique du français contemporain, 『言語文化研究』 13 号, pp. 85-100, 大阪大学言語文化部, 1987 年 2 月。
4. Pour l'automatisation de l'analyse syntaxique des textes de Ronsard, 『ロンサール研究』 1 号, pp. 125-132, ロンサール研究会, 1988 年 5 月。
5. ロンサールの語彙研究の技術的側面, 『言語文化研究』 15 号, pp. 59-71, 大阪大学言語文化部, 1989 年 3 月。
6. Tableau des rimes des *Amours* (1552) de Ronsard, 『ロンサール研究』 3 号, pp. 95-134, ロンサール研究会, 1990 年 5 月。
7. 『ロンサール作品集 (1609)』とサント＝ブーヴ, *Gallia*, n° 31, pp. 55-63, 大阪大学フランス語フランス文学会, 1992 年 3 月。
8. サント＝ブーヴ『16 世紀フランス詩及び演劇の歴史的批評的展望』の周辺, 『ロンサール研究』 6 号, pp. 33-45, ロンサール研究会, 1993 年 4 月。
9. シャルル・デュバン覚書, 『大阪大学言語文化学』 3 号, pp. 95-104, 大阪大学言語文化学会, 1994 年 3 月。
10. ロンサールの『論説詩集』と出版, 『ロンサール研究』 11 号, pp. 1-14, ロンサール研究会, 1998 年 6 月。
11. E.-L.-N. ヴィオレ＝ル＝デュック著作目録註解, 『言語文化研究』 26 号, pp. 219-232, 大阪大学言語文化部・大阪大学大学院言語文化研究科, 2000 年 2 月。

- 月.
12. 詩と死と癒し—ピエール・ド・ロンサールの場合—, 『人文研究』 31 号, pp. 74-91, 大阪医科大学, 2000 年 3 月.
 13. L'informatique, un outil pour les études littéraires ?, *Equinoxe*, n° 17-18, pp. 61-70, Rinsen Book, Kyoto, 2000 年春.
 14. ロンサールと『戯歌(ざれうた)集』—その匿名の問題について—, *Gallia* n° 40, pp. 27-33, 大阪大学フランス語フランス文学会, 2001 年 3 月.
 15. 情報と文化の伝承, 『情報と言語文化』, pp. 11-19. 言語文化共同研究プロジェクト 2000, 大阪大学言語文化部・大阪大学大学院言語文化研究科, 2001 年 3 月.
 16. CALL 授業における電子教材 "TeLL me More" の活用法, 『異言語・異文化教育におけるマルチメディア教育の可能性—フランス語教育の現場から—』, pp. 15-24, 言語文化共同研究プロジェクト 2001, 大阪大学言語文化部・大阪大学大学院言語文化研究科, 2002 年 3 月.
 17. フランス詩脚韻資料作成のテクニック, 『電子化言語資料の方法論』, pp. 1-11, 言語文化共同研究プロジェクト 2001, 大阪大学言語文化部・大阪大学大学院言語文化研究科, 2002 年 3 月.
 18. 階層的クラスター分析の有効性—英・仏・独・伊・西語の文字連鎖出現率の分析—, 『電子化言語資料の方法論 II』, pp. 1-14, 言語文化共同研究プロジェクト 2002, 大阪大学言語文化部・大阪大学大学院言語文化研究科, 2003 年 4 月.
 19. シャルル 9 世治世下の改暦—ルシヨンの王令を巡って—, 『言語文化研究』 29 号, pp. 151-158, 大阪大学言語文化部・大阪大学大学院言語文化研究科, 2003 年 2 月.
 20. 統計処理言語 R を用いた対応分析のテクニック—英・仏・独・伊・西語の文字連鎖出現率の分析—, 『電子化言語資料分析研究』, pp. 3-19, 言語文化共同研究プロジェクト 2003, 大阪大学言語文化部・大阪大学大学院言語文化研究科, 2004 年 4 月.
 21. 統計処理言語 R を用いたテキストデータ加工のテクニック—フランス詩音韻構造データ作成のために—, 『電子化言語資料分析研究 2004-2005』, pp. 13-21, 言語文化共同研究プロジェクト 2004, 大阪大学大学院言語文化研究科, 2005 年 5 月.
 22. E.-L.-N. ヴィオレ＝ル＝デュックの『計木詩法 (*La Métroxylotechnie*)』について, 『シュンボシオン—高岡幸一教授退職記念論集—』(金崎春幸他編), pp. 245-254, 朝日出版社, 2006 年 3 月.
 23. 統計処理言語 R を用いたテキストデータ加工のテクニック 2—日本語 Windows 環境でのフランス語テキスト処理—, 『電子化言語資料分析研究 2005-2006』, pp. 13-24, 言語文化共同研究プロジェクト 2005, 大阪大学大学院言語文化研究科, 2006 年 5 月.
 24. 統計処理言語 R を用いた資料分析法—語彙対の出現頻度比を用いた作品特徴の導出—, 『電子化言語資料分析研究 2006-2007』, pp. 41-49, 言語文化共同研究

- プロジェクト 2006, 大阪大学大学院言語文化研究科, 2007 年 5 月.
25. ロンサールのテキストにおける «guerre» と «paix»—計量的観点から見た 1558 ~ 1559 出版の小冊子群一, 『ロンサル研究』 20 号, pp. 223-236, 日本ロンサル学会, 2007 年 7 月.
 26. サント=ブーヴとヴィオレ=ル=デュック, 『テキストの生理学』(柏木隆雄教授退職記念論文集刊行会編), pp. 447-459, 朝日出版社, 2008 年 2 月.
 27. 統計処理言語 R を用いたテキストデータ加工のテクニク 3—16 世紀フランスのソネのデータを例として一, 『電子化言語資料分析研究 2007-2008』, pp. 45-54, 言語文化共同研究プロジェクト 2007, 大阪大学大学院言語文化研究科, 2008 年 5 月.
 28. フランス詩のマイニング—道具の R, R の道具一, 『多変量アプローチによるテキストの計量研究』, pp. 23-52, 統計数理研究所共同研究リポート 231, 統計数理研究所, 2009 年 3 月.
 29. R を用いたテキストマイニング 1—文字出現頻度によるソネのマイニング一, 『電子化言語資料分析研究 2008-2009』, pp. 25-34, 言語文化共同研究プロジェクト 2008, 大阪大学大学院言語文化研究科, 2009 年 5 月.
 30. R を用いたテキストマイニング 2—ソネの文字構成について一, 『電子化言語資料分析研究 2009-2010』, pp. 29-40, 言語文化共同研究プロジェクト 2009, 大阪大学大学院言語文化研究科, 2010 年 5 月.
 31. 叙事詩の音的特色について—R を用いた 16 世紀フランス詩のマイニング一, 『統計学的アプローチによるテキスト分析 II』, pp. 37-42, 統計数理研究所共同研究リポート 264, 大阪大学大学院言語文化研究科, 2011 年 3 月.
 32. R を用いたテキストマイニング 3—叙事詩と抒情詩の計量的差異一, 『電子化言語資料分析研究 2010-2011』, pp. 23-30, 言語文化共同研究プロジェクト 2010, 大阪大学大学院言語文化研究科, 2011 年 5 月.
 33. ヴィオレ=ル=デュックと文芸誌『リセ・フランセ』—書誌的側面から—, 『ステラ』 30 号, pp. 103-116, 九州大学フランス語フランス文学研究会, 2011 年 12 月.
 34. 押韻ラベル付与の自動化に向けて—ソネの押韻構成分析のための R スクリプト一, 『マイニング技術を応用したテキスト分析研究』, pp. 17-22, 統計数理研究所共同研究リポート 278, 統計数理研究所, 2012 年 3 月.
 35. R を用いたテキストマイニング 4—ソネ脚韻の音素分析一, 『電子化言語資料分析研究 2011-2012』, pp. 29-39, 言語文化共同研究プロジェクト 2011, 大阪大学大学院言語文化研究科, 2012 年 5 月.
 36. 脚韻判定法の評価—フランスのソネの押韻構成を用いて—, 『統計的マイニング技術を応用したテキスト研究』, pp. 49-60, 統計数理研究所共同研究リポート 298, 統計数理研究所, 2013 年 3 月.
 37. イタリアソネットの自動押韻ラベル付与—ベトラルカ『カンツォニエーレ』のソネット一, 『人文学データのマイニング』, pp. 25-33, 統計数理研究所共同研

- 究りポート 322, 統計数理研究所, 2014 年 3 月.
38. 16 世紀フランス詩の音の分析に向けて—N-gram とデンドログラムの利用—, 『人文学データのマイニング II』, pp. 11-20, 統計数理研究所共同研究リポート 345, 統計数理研究所, 2015 年 3 月.
 39. R を用いたテキストマイニング 5—N-gram による 16 世紀フランス詩の分析—, 『電子化言語資料分析研究 2014-2015』, pp. 15-28, 言語文化共同研究プロジェクト 2014, 大阪大学大学院言語文化研究科, 2015 年 5 月.
 40. アルスナル図書館所蔵のデュ・バルタス『聖週間』(1581)について, 『ステラ』 34 号, pp. 83-87, 九州大学フランス語フランス文学研究会, 2015 年 12 月.
 41. コーパス分析ソフト CasualConc の活用 (1) —ロンサールの論説詩とプロテスタント詩人による反ロンサール詩を例として—, 『ロンサール研究 30 号』, pp. 139-145, 日本ロンサール学会, 2017 年 8 月.
 42. コーパス分析ソフト CasualConc の活用 (2) —例として『恋愛詩集』(1552)を中心に—, 『ロンサール研究 31 号』, pp. 99-104, 日本ロンサール学会, 2018 年 8 月.
 43. フランス語中級講読枠の授業におけるロイロノート・スクールを用いたグループプレゼンの実践, 『FLEXICT Expo 2018: 外国語教育・ICT・Active Learning・Classroom Tips の融合 予稿集』, pp. 140-144, FLEXICT Expo 2018, 2019 年 3 月.

論文 (共著)

1. 岩井千春・岩根久, 「ポライトネス理論の視点による苦情対応の日英比較—店側の落ち度の程度による対応の変化—」, *The JASEC Bulletin*, n°28 (1), pp. 33-49, 日本英語コミュニケーション学会, 2019 年 11 月.

口頭発表

1. フランス語圏の人達に対するコンピュータを用いた日本語教育, 京都大学工学部対話研究会 (京都大学工学部), 1985 年 1 月.
2. フランス語の語彙にみられる文字相互関係—パリ第 7 大学言語文書自動処理研究所語彙集 LMS を用いた調査結果報告—, 言語文化研究会 (大阪大学言語文化部), 1985 年 7 月.
3. ロンサールの論説詩をめぐるパンフレット論争の諸問題, 大阪大学フランス語フランス文学会 (大阪大学文学部), 1986 年 3 月.
4. Fabrication de matériel video (北村卓氏と共同発表), フランス語教育研究会 (関西セミナーハウス), 1987 年 3 月.
5. ロンサールの語彙, ロンサール研究会 (静岡県—碧湖セミナーハウス), 1987 年 9 月.
6. Fabrication de matériel video 2 (北村卓氏と共同発表), フランス語教育研究会 (関西セミナーハウス), 1988 年 3 月.

7. Colloque de l'Institut Collégial Européen 1988 について, ロンサール研究会 (神奈川県あしがら荘), 1988 年 9 月.
8. Le travail en groupes dans une classe de 2ème année, フランス語教育研究会 (兵庫県舞子ビラ), 1989 年 3 月.
9. Hanafuda ou un travail en 1ère année, フランス語教育研究会 (兵庫県舞子ビラ), 1990 年 3 月.
10. NACSIS et *MIinitel*: La télématique au service des enseignants de français (J.-P. Honoré 氏と共同発表), フランス語教育研究会 (兵庫県舞子ビラ), 1991 年 3 月.
11. パーソナルコンピュータによる学術情報センターの利用, フランス語教育研究会 (兵庫県舞子ビラ), 1992 年 3 月.
12. サント=ブーヴ『16 世紀フランス詩及び演劇の歴史的批評的展望』の周辺, ロンサール研究会 (神奈川県あしがら荘), 1992 年 9 月.
13. テキスト処理言語 AWK を用いたフランス語テキスト処理, 日本フランス語フランス文学会秋季大会 (京都大学), 1993 年 10 月.
14. L'informatique, un outil pour les études littéraires?, Le Colloque franco-japonais « Ecriture / figure » (L'institut franco-japonais du kansai, Kyoto), 1998 年 11 月.
15. 書誌学者ヴィオレール=デュックと 16 世紀, ラブレール・モンテニュー研究フォーラム (立教大学), 2005 年 5 月.
16. 講読の授業を CALL 教室で活性化させるには, 獨協大学フランス語教授法研究会 (アテネ・フランセ), 2006 年 11 月.
17. 私のゲリラ CALL—教育に情報システムをいかに活用するか—, 広島大学プロジェクト公開セミナー (広島大学), 2006 年 12 月.
18. CALL における授業デザインと評価 (森朋子氏と共同発表), 関西フランス語教育研究会 (大阪日仏センター=アリアンス・フランセーズ), 2007 年 3 月.
19. フランス詩の音韻構造のマイニング—データ解析環境 R を用いて—, 統計数理科学研究所共同研究グループ (統計数理研究所), 2007 年 9 月.
20. 音要素に着目したフランス詩のデータマイニング, 統計数理科学研究所共同研究グループ (統計数理研究所), 2008 年 3 月.
21. いま初修外国語をどう教えるか?, 平成 20 年度国立七大学外国語教育連絡協議会合同シンポジウム (大阪大学), 2008 年 10 月.
22. フランス 16 世紀のソネの分類—R を用いたマイニング—, 統計数理科学研究所共同研究グループ・統計数理研究所言語系共同研究グループ合同発表会「言語研究と統計」(統計数理研究所), 2009 年 3 月.
23. フランス語初級文法の授業の今とこれから, 言語文化研究科・外国語学部・サイバーメディアセンター・留学生センター・世界言語研究センター共催シンポジウム「これからの外国語教育 2」(大阪大学), 2009 年 10 月.
24. 測れない時間と測れる時間—16 世紀の 2 人の詩人ロンサールとデュ・バルタスの場合—, 大阪大学フランス語フランス文学会・『ガリア』50 号記念シンポ

- ジウム「時の経過」(大阪大学・待兼山会館), 2011年3月.
25. 叙事詩の音声的特色について—Rを用いた16世紀フランス詩のマイニング—, 統計数理科学研究所共同研究グループ・統計数理研究所言語系共同研究グループ合同発表会「言語研究と統計」(統計数理研究所), 2011年3月.
 26. hclustをグルーピングツールとして使う: ソネ(フランス14行詩)の脚韻分類, Rユーザー(あるいは, これからRを使ってみようという人)のための(人文|言語|社会|文化|図書館)情報学研究集会(大阪大学・言語文化研究科), 2012年4月.
 27. 脚韻判定法の評価—フランスのソネの押韻構成に関して—, 統計数理科学研究所共同研究グループ・統計数理研究所言語系共同研究グループ合同発表会「言語研究と統計」(統計数理研究所), 2013年3月.
 28. ソネの脚韻分析に向けて—フランス16世紀のソネの押韻配置—, 統計数理科学研究所共同研究グループ・統計数理研究所言語系共同研究グループ合同発表会「言語研究と統計」(西南学院大学), 2013年9月.
 29. CALL教室におけるフランス語動詞活用Web教材「活用虎の穴」の効果的利用法, 第12回e-Learning教育学会(関東学院大学(金沢文庫キャンパス)), 2014年3月.
 30. ソネの脚韻分析に向けて—ペトラルカ『カンツォニエーレ』のソネットを中心に—, 統計数理科学研究所共同研究グループ・統計数理研究所言語系共同研究グループ合同発表会「言語研究と統計」(統計数理研究所), 2014年3月.
 31. 「第2外国語における反転学習の導入実践報告」(安部有紀子氏、本田周二氏と共同ポスター発表), 第3回反転学習公開研究会(関西大学), 2015年2月.
 32. 16世紀フランス詩の音の分析に向けて—N-gramとデンドログラムの利用—, 統計数理科学研究所共同研究グループ・統計数理研究所言語系共同研究グループ合同発表会「言語研究と統計」(統計数理研究所), 2015年3月.
 33. 論説詩合戦におけるロンサールとプロテストント詩人—計量的特色から何が見えるか—, 統計数理科学研究所共同研究グループ・統計数理研究所言語系共同研究グループ合同発表会「言語研究と統計」(統計数理研究所), 2016年3月.
 34. 語彙計量的手法を日常のテキスト分析に, 日本ロンサール学会2016年度大会(同志社びわこリトリートセンター), 2016年8月.
 35. 反ロンサールパンフレットの計量的特徴を探る, 統計数理研究所言語系共同研究グループ・2016年度夏季共同研究発表会(神戸大学), 2016年8月.
 36. 反ロンサールパンフレットの計量的特徴の再検討, 統計数理科学研究所共同研究グループ・統計数理研究所言語系共同研究グループ合同発表会「言語研究と統計2017」(統計数理研究所), 2017年3月.
 37. テキスト理解のために計量的手法を—Mac用フリーソフトCasualConcを用いたラプレーとモンテニューの語彙の比較を例に—, ラプレー・モンテニュー研究フォーラム(東京大学), 2017年6月.

38. 語彙計量的手法を日常のテキスト分析に (2) 一頻度の可視化について一, 日本ロンサル学会 2017 年度大会 (同志社びわこリトリートセンター), 2017 年 8 月.
39. 語彙計量的手法を日常のテキスト分析に (3) 一共起について一, 日本ロンサル学会 2018 年度大会 (同志社びわこリトリートセンター), 2018 年 8 月.
40. フランス語中級講読枠の授業におけるロイロノート・スクールを用いたグループプレゼンの実践, FLExICT Expo 2018: 外国語教育・ICT・Active Learning・Classroom Tips の融合 (大阪工業大学梅田キャンパス OIT 梅田タワー), 2019 年 3 月.
41. ポライトネス理論の視点による苦情対応の日英比較—店側の落ち度の程度による対応の変化— (岩井千春氏と共同発表), 外国語教育メディア学会 (LET) 関西支部 2019 年度春季研究大会 (関西国際大学尼崎キャンパス), 2019 年 5 月.
42. 苦情対応の日英比較—ロールプレイとインタビューの分析— (岩井千春氏と共同発表), International Conference on Foreign Language Education and Technology, August 6-9, 2019 (早稲田大学早稲田キャンパス), 2019 年 8 月.
43. 語彙計量的手法を日常のテキスト分析に (4) 一語彙使用の特色を探る—, 日本ロンサル学会 2019 年度大会 (同志社びわこリトリートセンター), 2019 年 8 月.

翻訳書

1. 『フランス・ルネサンス文学集 2 笑いと言と』(宮下志朗・伊藤進・平野隆文編, 荻野アンナ氏他 4 氏との分担共訳), 白水社, 2016 年 3 月.

講演

1. 理系? 文系? どうする?, 大阪府立北野高等学校・「大学セミナー」(大阪府立北野高等学校), 2004 年 11 月.
2. ルネッサンスの音楽と詩: 恋は歌うものなのか?—ロンサル『恋愛詩集』と音楽—, 日仏文化講座 CAF・「日仏文化講座」(神戸国際会館), 2006 年 2 月.
3. 私のゲリラ CALL 一教育に情報システムをいかに活用するか—, 「広島大学プロジェクト公開セミナー: 総科プロジェクト「言語と情報」」(広島大学総合科学部), 2006 年 12 月.
4. いつから 1 月 1 日が 1 年の始まりなのか, 日仏文化協会・「フランス文化講座」(日仏文化協会関西センター), 2009 年 3 月.
5. 言葉を探るといふこと, 大阪府立北野高等学校・「知的世界への冒険」(大阪府立北野高等学校), 2012 年 9 月.
6. 炸裂する恋愛, 大阪府立北野高等学校・「知的世界への冒険」(大阪府立北野高等学校), 2013 年 9 月.
7. フランス語初級 (文法) クラスで反転授業をやってみた—「反転授業」的な

方法は吉か凶か?-, 京都外国語大学・「京都外大 AP 研修会」(京都外国語大学), 2015 年 7 月.

8. ロイロノートセミナー, 神戸大学国際コミュニケーションセンター・「国語教育セミナー」(神戸大学鶴甲第 1 キャンパス), 2019 年 11 月.

教科書・問題集・参考書

1. クレチアン夫妻の祝祭日 (ビルマン氏, 伊藤了子氏と共著), 早美出版社, 1992 年 3 月.
2. フランス・ユーモア選集 (江口修氏, 高橋純氏, 高橋百代氏, 吉井亮雄氏と共編), 青山社, 1990 年 3 月.
3. きりとるテストー10 分間でフランス語一, 第三書房, 1997 年 3 月.
4. 新・フランス語文法 (春木仁孝氏他 7 氏と共著), 朝日出版社, 2003 年 4 月.
5. 新きりとるテストー10 分間でフランス語一, 第三書房, 2011 年 4 月.
6. 新・フランス語文法 (新訂版) (春木仁孝氏他 10 氏と共著), 朝日出版社, 2013 年 1 月.
7. 新きりとるテストー10 分間でフランス語一 (2 版), 第三書房, 2014 年 3 月.
8. 新きりとるテストー10 分間でフランス語一 (3 版), 第三書房, 2015 年 4 月.
9. 新・フランス語文法 (三訂版) (春木仁孝氏他 10 氏と共著), 朝日出版社, 2017 年 1 月.
10. 新きりとるテストー10 分間でフランス語一 (4 版), 第三書房, 2018 年 4 月.
11. フランス語動詞活用ドリル虎の穴, 白水社, 2018 年 5 月.

寄稿記事

1. 外国語の文法学習に CALL 授業は効果があるのか? - 直撃、Q & A -, 『大阪大学サイバーメディア・フォーラム』 5, pp. 45-46, 大阪大学サイバーメディアセンター, 2004 年 9 月.
2. 「道しるべ」, 『ラテン詩人 水野有庸の軌跡』, pp. 74-76, 『ラテン詩人 水野有庸の軌跡』 編集委員会, 2009 年 3 月.
3. 「活用虎の穴」開設 10 年に事寄せて, 『e-Learning 教育研究』 5, pp. 40-43, e-Learning 教育学会, 2010 年 12 月.
4. 荒地に花, 『大阪大学サイバーメディア・フォーラム』 13, pp. 61-52, 大阪大学サイバーメディアセンター, 2012 年 9 月.
5. 授業における音声再生装置としての iPad mini, 『e-Learning 教育研究』 8, pp. 54-57, e-Learning 教育学会, 2013 年 12 月.
6. フランス語初級文法学習のための環境, 『大阪大学サイバーメディア・フォーラム』 19, pp. 15-18. 大阪大学サイバーメディアセンター, 2019 年 2 月.

科学研究費助成実績

1. 官吏ヴィオレニル＝デュックと文学, 基盤研究 C (代表), 2006 年度～2008 年

度.

2. 意味の対応付けによる辞書資源群の多言語セマンティック Web 化, 基盤研究 B (分担/研究代表者: 林良彦), 2013 年度～2016 年度.
3. 観光業の苦情対応における日英比較の研究—語用論を活かした ESP 教材の開発—, 基盤研究 C (分担/研究代表者: 岩井千春), 2017 年度～2020 年度.